岩本ゼミ　ゼミナール機関誌への卒業生からのメッセージ

ゼミ機関誌創刊に寄せて

９６年卒　東京エレクトロン財務部勤務
加藤　寛

ゼミ論集創刊おめでとうございます。着実にゼミの歴史が積み重ねられているのをうれしく思います。これを書いている今はその中身は分かりませんが、皆のことだからさぞ難しいことを書いていて、学生時代でもあまり分からなかったのですから、今となってはちんぷんかんぷんでしょうね。わからないとはいえ、こうして原稿を依頼されたり、できたものを送ってきてもらうと妙にうれしいものであり、こう言っておけばずっと送ってもらえるんだろうなんて考えてしまう不届き者です。

大した原稿は書けませんが、ＯＢとしてできるかぎりの協力は惜しまないつもりですので、気軽に言ってきてください。昨年のインゼミの資料探しなどの依頼はうれしいものですので、どしどし利用してください（あまり役に立てないかも知れませんが…）。

入社してまもなく一年になろうとしていますが、ようやく自分の仕事が理解できるようになってきました。具体的には輸入品の支払いが中心業務で、これから外為法が規制緩和の先陣を斬りそうな時世のなかで今の業務がどう変化していくのか予想もつかず不安な反面どうなるのかなあとワクワクもしています。

何だか長くなってきたのでこの辺でやめにして、岩本先生、高橋さんを始めゼミに関わる全ての人の活躍を期待して創刊に寄せる言葉とさせていただきます。

海外経済協力基金　業務第Ⅲ部業務第２課
木村　亮示

今にして思えば、京都というのは不思議な町で、世の中の流れと、いい意味でも、悪い意味でも少し離れた学生生活を過ごしていた気がします。学生と社会人という自分自身の立場の変化も理由の一つではあると思うのですが、去年までの自分の知っていた（つもりの）日本社会と、今の自分が生活している日本社会とのギャップが大きく、戸惑うこともしばしばです。で、今一番したいことは、（岩本先生には、笑われそうですが…）経済学を始めとする社会科学の勉強なのです。働きはじめてからはこれまで以上に自分自身の物の見方というか、哲学というかそういった物が求められているのを強く感じており、そのためにも、ゼミのネットワークを生かして、それぞれの経験や考え方をもっと交換できればいいなあと考えています。東京にくる人がいれば、是非一度連絡してください。

以上短いですがゼミに送るメッセージです。

「京大岩本ゼミの一期生として」

石井　邦彦

時が経つものは早いもので、岩本ゼミ一期生３名が卒業してから、もうすぐ１年が経とうとしています。これから卒業する２期生の人達にとっても、もうすぐ就職活動が始まるという人達にとっても、ゼミの先輩がどんな仕事をしているのか、どんな考え方を持っているのかということは、多少なりとも関心のあることではないかと思います。今回は、第一回ゼミ論文集という記念すべき文集に、社会人一年生として、未熟ながらも、頑張っている姿を書かせて頂きます。

現在働いているところは、商社（日商岩井）の財務部外国為替輸出課です。配属先については、希望通りといったところで、大学４回生の12月頃にあった配属面接では、長期の大型案件がやりたいので、最初の配属は、ファイナンスの勉強ができるようなところで、そのあと３、４年してから、その知識を生かせるような営業部門か、プロジェクト金融部のようなところに移りたいと言ったのを覚えています。（もちろん今後の転属に関しては、これからの努力次第ですが。）

大ざっぱに、業務内容をまとめると、輸出した商品の代金の回収を銀行の信用をベースにして行うといった感じになります。具体的には、主に信用状（Ｌ／Ｃ）の実務として、Ｌ／Ｃの内容のチェック、輸出書類の整合性のチェック、手形の作成、決済管理、海外の銀行のUNPAY に対する対抗処置、金利交渉などその他、通産省の貿易保険の付保に関わる事務。長期案件延べ払いの決済（半年に１回請求）の事務として、契約、Ｌ／Ｃなどの条件に従って金利と残高を計算、手形の作成、DVE の日に決済を確認、入金にならなければ、海外の銀行に支払いを要求するTelex を日本の銀行経由で打つなど。

こういった実務は、既に営業担当者などが作ったスキームを理解し、確実に実行するという意味で正確さが要求され、頭も使います。ただ、商社マンとしては、正確に実務ができることは当たり前（平均レベル）であり、プラスα何かレベルアップを目指さないといけないと考えながらいつも仕事をしています。今のところは、大口の案件での金利交渉（銀行から通常よりいいレートをもらう）、外為法などの規制を理解して社内での相談に答えられるようにすること。英語、中国語の勉強。社内経理処理システムの理解を深めること、といったところで努力しています。

まじめな話をしましたが、商社で働いていると、いろんなイベント、事件など、楽しい事がたくさんあります。ゼミ生の皆さんとは、ゼミコンパなどに参加したときに話をしたいと思っています。最後に、岩本先生をはじめ、岩本ゼミの今後の発展を願うとともに、二期生に対して「卒業おめでとう、ゼミ論お疲れさま」の言葉を贈ります。